

2002 年度「介護サービス分野での知的障害者の就労～居場所と役割～」

(NPO ワイワイあぼしクラブ 社会福祉・医療事業団 高齢者・障害者福祉基金 助成事業)

2000 年度から振興センターで行われている養成研修事業とそれを基に広がってきた介護事業所等での障害のある人の就労についての模索が続けられてきたが、「2002 年度 社会福祉・医療事業団 高齢者・障害者福祉基金 助成事業」を「NPO ワイワイあぼしクラブ」が受け、さらなる就労の可能性の模索のために調査研究が行われた。

そこから見えてきたことは、以下の 3 点である。

①「知的障害のある人の就労の可能性を探る」という意味においてスタートしたはずの様々な取り組みが、決して知的障害のある人の就労問題だけにとどまることなく、とりわけ高齢者福祉におけるケアの本質(「高齢になっても人の役に立つ」ということは尊厳のある人生に繋がる。その為に必要な「世話をし、世話をされる水平・双方向の関係」)についても新たな考えや可能性を探る契機となった。

②障害者福祉と高齢者福祉との融和を促し、地域での生活・就労等をサポートする関係機関・施設などの社会資源のネットワークを構築する意味(障害福祉と高齢福祉、行政と民間、福祉施設と支援機関の人やグループの行来)においても、有効である事業ということも見えてきた。

③介護事業所等での知的障害のある人の就労を考えることにより、現代の日本の労働者を取り巻く様々な社会的課題(臨時職員やパートといった立場的に不安定な雇用、長時間労働や不適正な労働内容)をも考える契機になった。

そして、この調査研究を通して、介護事業所等での知的障害のある人の就労は、知的障害のある人の新たな職域の拡大、就労の機会の増大という枠を超え、様々な分野へ波及する可能性を秘める事業であると確信を持つこととなった。